

教員による教員のための評価・研修システム開発の必要性について（２） —他業種・他国におけるコンピテンシー研究の動向と今後の可能性

発表者：武蔵大学 武田信子

- ☆ 他分野での専門家養成教育におけるコンピテンシー研究の動向
- ☆ 他国の教員評価・研修におけるコンピテンシー研究の動向

↓ 今後の可能性

☆ 日本の教員のコンピテンシー抽出上の留意点

＜マクレランド：素晴らしい少数の判断力のある外交官のコンピテンシー＞
文化移入の課題 Wim Westerman (2010.2.来日予定)

日本の教員の場合

- ★教員の能力が最低限のライン（子どもの尊厳を尊重する）以上であること
大多数のごく普通の教員に必要なことは何か？を考えることが必要
- ★学校コミュニティで協働できる多数の教員のコンピテンシーを考えることが必要
Sweden Lund市の場合 教員個人を評価せず、ユニットを評価する
← 教育の優れた街第一位
- ★ごくせんの魅力 ←授業シーンの少なさ
国民が漠然と求めているのは、対人コミュニケーションのとれる教員ではないか？
多様性に対応できる柔軟なコミュニケーション能力の開発
←授業レベルが高く評価されている日本の教師に今後必要なもの
大学教員養成でチェックしきれない部分に工夫が必要
チェックできない…教員に必要な資質要素として明確化されていない
- ★「授業力」の強調に対して SBL F. Jansma (2010.2.来日予定)
教科を教える力 <教授力>
+対人コミュニケーションの力 <対人関係力>
+教育者として生徒を社会人に成長させる力 <教育力>
+組織（学級や学校などの集団）をマネッジし、風土を作る力 <組織力>
と分けて考え、それぞれの力を伸ばす必要があるのではないか？
← 教員のWSからこれらの項目を抽出

☆コンピテンシーリストの作成が目的ではなく、座標軸を打ち出すことによって、個人の力量の振り返り(要注意要因の排除)、教員による学校コミュニティの総合的機能のあり方、それらに基づく研修の開発、変化のプロセスの可視化 を促す。(Cf. Jung の類型論)

☆ 教員養成改革

F.Korthagen (2010.9-10 来日予定) 教員養成モデルの開発・研究

教育研究センターの必要性 ロッテルダムの CED

教育方法の開発・研修、実験的教育、教材開発、学校教育コンサルタント、
国家プロジェクトへの協力

☆ 教師教育者の資質への問い

ATEE (欧州教師教育学会) ITQ (The Identifying-Teacher-Quality Project)

Anja Swennen ら

教師教育者のトレーニング開発 →国際協同研究

一国と日本の比較 ではなく、全体を見通した比較が必要

統合的に、日本のこれからの教育に何が必要かを考えていく。

(もはや、ある国の真似をする、という時代ではない)

日本の教育の目指すところは何か？子どもたちをどのように成長させるのか？

→それによって、教員のコンピテンシーは変わる。